

# 島根県奥出雲町原田遺跡旧石器時代資料の再整理データ

稲田陽介・伊藤徳広

- 
- |           |          |
|-----------|----------|
| 1. はじめに   | 4. 若干の傾向 |
| 2. 再整理の方法 | 5. おわりに  |
| 3. データの内容 |          |
- 

## 1. はじめに

本稿で提示するデータは、島根県奥出雲町に所在する原田遺跡旧石器時代資料の再整理データである。

原田遺跡では、三瓶浮布降下火山灰、始良丹沢火山灰(AT)、三瓶池田降下火山灰に挟まれた三枚の旧石器文化層内に、68ヵ所の石器ブロックが検出されている。ただ、2008年に刊行された報告書(島根県教育委員会編2008)では、挿図非掲載資料や産地分析資料の帰属ブロックが明らかにされておらず、ブロックごとの検討ができない状態にあった。そこで筆者らは、原田遺跡出土旧石器時代資料の再整理を行い、各ブロックの一覧表及び分布図の作成を行った。

## 2. 再整理の方法

再整理の対象は、旧石器時代資料のうち第I文化層、第II文化層、第III文化層に属するブロック1からブロック68、ブロック外資料である。礫群や炭化物の整理は行っていない。再整理の方法は以下のとおりである。

- 1 石器の座標データを国土座標上にプロット
- 2 報告書に掲載されている石器分布図と照合
- 3 照合できた石器のPnoをもとに報告書の旧石器計測一覧表をブロック単位に編集し、実資料と突合

なお作業については、Pnoの振り分けは稲田が、実資料との突合及びデータの作成は伊藤と稲田が、分布図の作成は伊藤が行った。本文の作成は両者が協議の上、稲田が行った。

## 3. データの内容

再整理データは、全て本書付属のCD内に収められている。内容は、ブロックごとに振り分けた旧石器計測一覧表(Excel)と、筆者らが新たに作成した各ブロックの石器分布図(PDF)である。一覧表は、報告書の旧石器計測一覧表をそのまま使用している<sup>(1)</sup>。分布図はブロックのみ作成した。

今回の作業では、報告書の記載と完全に合致させることはできなかった<sup>(2)</sup>。よって本データは報告書に示された公式なデータとは異なる部分がある。データの利用の際には必ず報告書を確認し、検討した上で利用していただきたい。

## 4. 若干の傾向

ここで、整理の過程で確認できた若干の傾向について述べたい。

第I文化層では、調査区北側に分布するブロック49~52と、南側に分布するブロック53~68で、石器組成や産地分析結果に相違が認められた<sup>(3)</sup>。北側のブロックでは縦長剥片を素材とした小型のナイフ形石器を組成する。産地分析結果では久見産や加茂・津井産と判定された黒曜石、花仙山産と判定された碧玉、原田1・67・93遺物群と判定された安山岩などが利用されている。一方で南側のブロックでは、尖頭状の石器やスクレイパーを多く組成し、飯山産や冠山産(原田2遺物群)と判定された安山岩、原田1・3遺物群と判定された安山岩が用いられている。また金山東産と判定された安山岩は、全てブロック66に属することが判明した。

第Ⅱ文化層でも、第Ⅰ文化層と同様に分布域ごとに石器組成や産地分析結果に異なる傾向が認められた。調査区北側に分布するブロック26～34や中央に分布するブロック35～38では、大型・小型の角錐状石器やナイフ形石器を組成し、久見産や加茂・津井産と判定された黒曜石、花仙山産と判定された碧玉、飯山産や冠山産（原田2遺物群）と判定された安山岩などが用いられている。一方、南側に分布するブロック39～48では横長剥片素材のナイフ形石器を主体とし、白峰産と判定された安山岩が多く用いられている。

第Ⅲ文化層では、久見産や加茂・津井産と判定された黒曜石、飯山産と判定された安山岩の利用が目立つ。花仙山産と判定された碧玉は、全て緑色の良質な資料で小型品が多い。玉髄は様々な石質のものが利用されており、大型の原石を利用した石核が多数認められる。また水晶として一括されたものには、石英質のものと水晶質のものがあり、ブロック別に利用状況が異なっている。各ブロックの内容は稲田2015で詳述しているので参照されたい<sup>(4)</sup>。

## 5. おわりに

原田遺跡旧石器時代資料の再整理を行い、可能な限りデータの復元を行った。原田遺跡は山陰地方で唯一、旧石器が層位的に出土した遺跡であり、また比較的古相の台形様石器群や数少ない三瓶浮布降下火山灰上位の資料が存在するなど、その重要性は計り知れない。そのような重要遺跡について、正しくデータを提示することができたのか不安に思うが、本データが旧石器時代研究の一助となれば幸いである。

## 註

- (1) 基本的に表の内容には手を加えていないが、石材など明らかにミスだと判断できるものについては、備考欄に赤字で記している。また石器の帰属ブロックが報告書と矛盾するものについては、座標データを優先した。
- (2) 報告書と比べて出土点数が増えたブロックと減っ

たブロックがある。原因としては、石器集中部の範囲内に新たなドットが確認されたことや、1つのPnoに複数の枝番が付けられていたこと、ドットが完全に重複したため筆者らが拾いきれなかったことなどがあげられる。

- (3) 産地分析結果の傾向は、分析に出した資料のみの傾向であるため注意が必要である。ただし、筆者らの肉眼観察では、おおむねブロック群の内容を反映していると考えている。
- (4) 稲田2014・2015の表2の一部に誤りが見つかったので訂正させていただきたい。石器深度について、ブロック4～25は報告書第87図の等高線を利用して計算しているが、ブロック1～3については周辺に等高線が図示されていなかったため、島根県埋蔵文化財調査センターに保管されている測量図原図の当該箇所をコピーして利用した。しかし今回、等高線のデータを出すために改めて作業を行った所、測量年度や方法の違いなどから両図は完全には合致しないことが判明した。よってブロック1～3とブロック4～25の石器深度値を比較することはできない。ただし、本文の結論に大きな変更はない（稲田）。

## 参考文献

- 稲田陽介2014「島根県原田遺跡から見た後期旧石器時代前半期の石器集中部」『第31回中・四国旧石器文化談話会 遺跡構造から読み取る旧石器社会』中・四国旧石器文化談話会、11-20頁
- 稲田陽介2015「島根県原田遺跡における後期旧石器時代前半期石器群の再検討－隠岐産黒曜石の資源利用をめぐる基礎的研究－」『古代文化研究』第23号、島根県古代文化センター、23-48頁
- 島根県教育委員会編2008『原田遺跡（4）旧石器時代編』